

創立103周年記念式および記念講演会

令和5年、6月19日（月）午後2時05分より、母校創立103周年記念式が体育館で開催された。記念式では、校長式辞のあと、同窓会長、PTA会長が祝辞を述べられた。



創立103周年記念式

これまでコロナ禍で、体育館に一堂に会することが出来なかったが、今年度コロナ対策が緩和され、久々に全校生徒及び全職員及び同窓会役員が集合しての式典となった。式典の最後には、母校吹奏楽部の伴奏で全員が校歌を斉唱した。

午後2時40分より卒業生による記念講演が開催された。講演者は平成9年情報技術科卒の石川洋平氏。現在、独立行政法人国立高等専門学校機構 有明工業高等専門学校 創造工学科 情報システムコース 准教授として研究・教育活動をされている。講演は「ミクロなものづくりとブランディングの重要性 -サーキットデザイン教育の普及を目指して-」の演題で進められた。

最初に自己紹介としてご自分の高校時代のこと、家族のこと、友人のことなどを話された。高校時代はバンド(音楽)を組まれていたようだ。学校の授業や先生のこと入れながら身近な話題等で関心を持たせつつ対話的に進められた。

書籍「よ〜くわかる電子回路の基本としくみ」等の専門書を出版され、また情報電子回路研究室ICLab(アイシーラボ)を開設、異業種・異分野の方々との交流によって沢山のコラボレーションを目指し意欲的に活動されている。

サーキットデザイン、半導体や集積回路の仕組みや回路設計の話ではその基本的なし



講演

くみがわかるモデルを全員分準備されて説明が行われた。回路のレイアウト設計では、より小さくきれいなものが高速処理が行え高性能とのことである。nm(ナノメートル)というマイクロなものづくりについて話をされ、私たちが何気なく使っているスマートフォンの中身を知る機会にもなった。



講演

STP(セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング)分析についても触れられた。また、GPU(グラフィックスプロセッサ)/CPUについての話もあり、これからは、WordやExcelが使えと同じようにeスポーツやパソコンゲーム等が出来ることも将来大切になるという、専門的な分野の未来も知ることが出来た。

ブランディングの重要性

では、自分自身のストーリーを描くために、八工生としての誇りや校訓について話をされた。親や先生に感謝の気持ちを持つことや「誠実・勤勉・強調」の校訓を大切に生きることの意義について伝えられた。

講演のあと、生徒達から質問が出た。

「成し遂げるために継続することはどんなことですか?」「先生にとって成功って何ですか?」「失敗したことがありますか?」「どうすれば先生みたいになれますか?」「半導体が増え続けたらどうなる?」等々。

それに対し、「小さな喜びを続けること」「失敗は成功の前ぶれである」「ネガティブハンディキャップを止めること」など一つ一つ丁寧に説明して答えられた。

八女工業高校では、よく「八工魂」ということばが使われる。やれば出来るとか、継続は力なりなどそのとらえ方は様々だが、今回の講演で、自分が八女工業生であることに、誇りや自信を感じた生徒は多いと思う。また、先生のような生き方をしたいと考えたり、自分も将来は自分の生き方(体験)を母校の生徒の前で、話してみたいと思った生徒もいるだろう。



生徒謝辞



花束贈呈

生徒達の今後の生き方考え方に、新たな夢や希望を与えるとともに、半導体業界では人材確保や日本の技術力向上が急務になっている現状もあり、半導体製造・集積回路設計分野の未来を考えさせる講演だった。